

Improvement in left ventricular function of the resected myocardium after septal myectomy for patients with aortic valve replacement

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上川, 祐輝 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002806

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2519 号

Improvement in left ventricular function of the resected myocardium after septal myectomy for patients with aortic valve replacement

心筋肥大・左室流出路狭窄を有する患者に対する中隔切除術による術前後の心機能の評価と切除心筋の病理組織学的検討

上川 祐輝 (かみかわ ゆうき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、大動脈弁狭窄症の患者が増加する中で、大動脈弁狭窄症患者に合併することのある心室中隔の肥厚やS字状中隔に対して、中隔切除を同時施行し、その効果、周術期心機能に及ぼす影響に関して研究した。当院心臓血管外科の豊富な症例数を用い、患者のデータ解析、周術期の心臓超音波検査、そのデータを用いたストレイン解析、中隔切除により切除された心筋の病理組織学的解析が行われた。患者背景では、中隔切除群 (21 例) で、コントロール群 (41 例) に比し、男性が少なく (29% vs 59%)、他の項目の年齢、合併症に有意差はなかった。また、中隔切除群の術前心臓超音波検査では、大動脈弁狭窄症の重症度分類である、大動脈弁最高血流速度、平均収縮期平均圧格差に関しては有意に低かった。術後コントロール群では、9.8%に左室流出路狭窄を認めたのに対し、中隔切除群では、左室流出路狭窄の再発がなく、有意に差を示した。周術期心臓超音波検査におけるストレイン解析では、中隔切除群では心筋肥大部位の中隔で術後有意に改善していた (Basal septal 9.7 ± 6.7 vs 6.4 ± 6.0 , $p < 0.05$ 、Mid septal 8.6 ± 6.2 vs 5.3 ± 4.4 , $p < 0.05$ 、Apical septal 23.4 ± 14 vs 11.8 ± 11 , $p < 0.01$)。切除した肥厚心筋の病理学的解析では心内膜肥厚と著明な線維化を伴っていた。心室中隔の肥厚やS字状中隔を有する大動脈弁狭窄症において AVR と中隔切除を加えることによって、ストレイン解析上局所的な心機能の改善が得られる事を始めて明らかにした、臨床的に意義ある論文である。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。